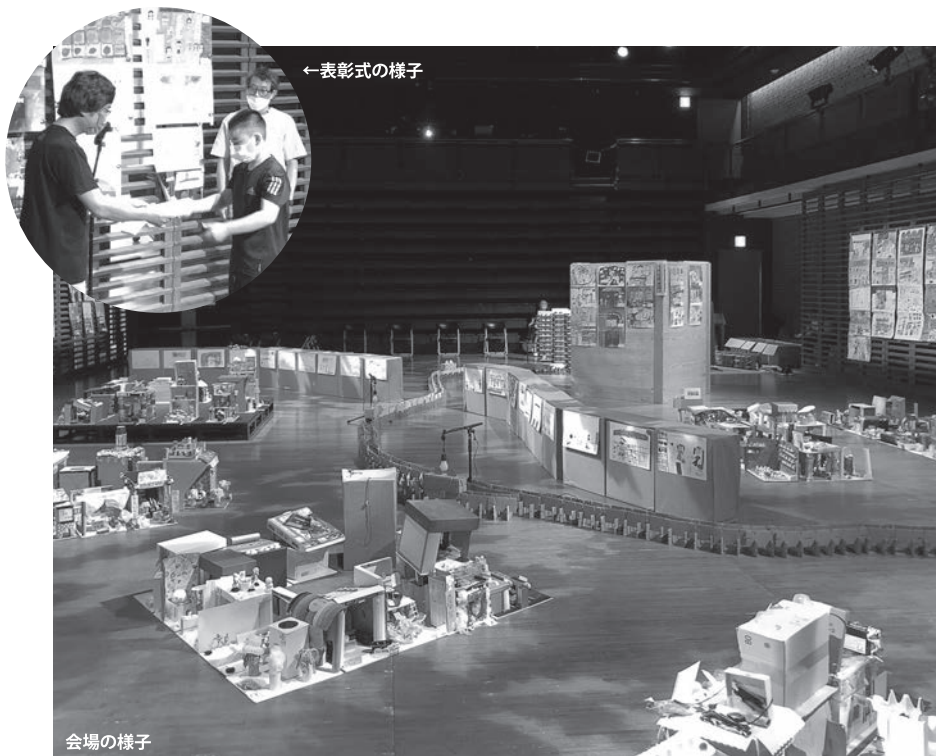


# 「お店をつくろう! ~小さなまちづくりプロジェクト~」

JIA愛知の恒例事業となった豊橋での建築ワークショップ「お店をつくろう! ~小さなまちづくりプロジェクト~」。

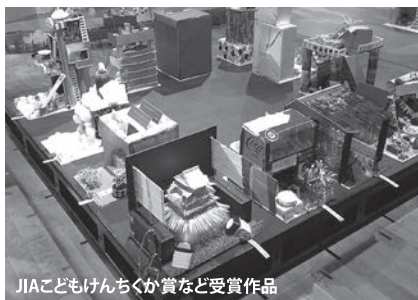
今年3年ぶりの表彰式を開くこと出来ました。JIA愛知の森地域会長からの賞状授与と講評を行い、未来の建築家へ希望を託しました。事業委員メンバーはじめ委員会横断的なサポートにより今年も無事完了しましたので、ご報告致します。黒野 有一郎(JIA愛知 事業委員長)



会場の様子

JIA愛知ではこれまで様々な建築教室を開催してきました。そのひとつが「ダンカード」によるワークショップであり、2014年の長者町えびす祭より取り組んで参りました。繰り返し利用可能なアイテムとはいえ、長年の使用による紙質劣化もあり、現在は「一寸格子」をメインに建築教室を行っています。役員会では処分の了承がなされ、最後の活躍の場を待ち続けているところでのコロナ渦。長く事務局の書棚上で眠っている状態でした。

そこで今回の「お店をつくろう!」では、ダンカードワークショップも開催しました。久々の一般児童を対象としたワークショップとなり、ダンカードの最後の登板となったわけです。本事業は小学生児童のお菓子等の空き箱によるお店の制作展示が中心であり、ダンボール素材とは抜群の相性です。会員が制作したアーチ駅舎、水上ビルに見立てたダンボール箱の横を線路が走り、再開発地区と称したワークショップエリアま



でを結びます。きめ細やかな照明によって美しく演出され、有終の美を飾ることができました。

さて、撤収の場面のこと。やっぱり処分するのはもったいないねという声もチラホラ。そこで本事業のサポーターの方のご厚意により、豊橋市内の倉庫にて保管していただくことになりました。引退が一転、ダンカードは来年以降も活躍することになります。



上原 徹也  
(JIA愛知 事業室長)

会場設営と表彰式・講評会に参加しました。初めてのこともあり、変化に富んだ絵画と立体作品そしてその数に圧倒されました。なにより、それぞれの作品に魅力があり見ていて飽きることがありません。活動が長く続くのもこの楽しさがあるからかと納得しました。この建築WSは今年で16年目を迎え、参加した小学生の多くは社会人となっているそうです。どのような心の変化が生まれ、これからどうまちと関わってゆくのでしょうか。

この活動は子供だけではなく、家族、ボランティア、画家、行政なども巻き込んでいます。会場のPLAT周辺は、水上ビル、広場とまちなか図書館など様々な空間があり「まちなか」の魅力を伝えています。市民と行政の良い連携も感じました。



森 哲哉  
(JIA愛知 地域会長)

そこには小さな町ができていた。中央を路面電車が走り、線路の両側に子供たちが考えた様々なお店の模型や絵が並べられている。外観に拘ったお店、売る物にアイデアをつぎ込んだお店等見ていて飽きない。同じ年の頃の自分はこのテーマで何を作ったのだろうか。想像するとちょっと楽しくなる。

この町はずれの一角でダンカードを使って興味を持った子供たちが即興で自由に工作を楽しむことができる。作ってる姿はみんなうれしそう。子供達との触れ合いは刺激に溢れていて、何か自分もやりたくなる。そんな気分になる一日でした。



花井 秀哲  
(JIA愛知 事業委員会副委員長)